



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2025年3月1日

3月 277号

奈良・人と自然の会



＜ならやまの里山林・力をあわせて木を植えました＞



## Contents

ホームページではカラーで見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	海外ボランティア (パラグアイ) 16	7
Monthly Repo ならやま	2	きょうみ森森	8
里山の今 (里山、果樹)	3	ならやま投句箱	9
佐保川小学校学習支援・レポ	4	行事案内	10
シイタケイベント・レポ	5	幹事会報告、行事予告、会員動向	11
旅の記憶	6		

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
あなたも私も・力合わせて

大寒波襲来で大雪の便りが続いた2月もようやく終わりに近づいたが、寒暖差が大きく体にこたえる。その中で今年初めての子供たちを迎えてのイベントは絶好の小春日和に恵まれて、楽しそうな笑顔に元気もらった。

自転車道沿いの彩の森で清楚な花々を咲かせていた水仙はすでに香りを残すのみとなったが、南高梅の蕾は今にもはじけそう膨らんでいる。ふと足元を見ると小さな草花が…「もう春ですよ」とささやく声が聞こえるようだ。

エコGや果樹Gでは、枯葉や竹チップをかき集めての堆肥作り、田畑の準備、春物野菜の種まきが進む。シイタケも春子が顔を出した。春はすぐそこだ。



楚々と咲き誇る水仙  
(彩の森自転車道沿い2月6日)

**3月から第4土曜の活動はなくなり、活動日は毎週木曜日に戻ります**

昨年4月から若い人たちの参加を期待して実施してきた土曜活動については、当初、訪れた人の中には参加の意思も認められましたが結果にはつながらず、一方、土曜参加者は木曜日の2/3にとどまって全体のパワー減となっている実態を踏まえて、3月からは活動日を従来の毎週木曜日に戻すことになりました。

**3月の活動特記事項** 活動日：6(木), 13(木), 20(木), 27(木)

3月6日(木)：協働活動(アダプトプログラム、シイタケ菌打ちと天地返し)

**3月の各グループ活動予定**

グループ	活動予定
里山	椎茸菌打ち・楢木の天地返し、 生育環境改善のための楢木の移動(No.5→No.29) 里山林内整備、自然の森危険木処理、薪棚更新、薪割り
エコファーム	冬野菜の収穫、春物野菜種まき、夏物野菜畑準備 水田の整備、鹿対策ネットの整備
景観	整備：竹林の整備、チップ作業 ビオ：西池排水口補修、池・水路の景観保全・整備、 花：道路沿い、駐車場周辺花壇の草引き
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備、桜山下草刈り、保護植物周辺整備
果樹	実りの森の土壌改良、果樹の畝づくり、柑橘類剪定 BC周辺柑橘類カイガラムシ退治、

**活動日：毎週木曜日 9:00~15:00**

前日の17時発表の気象庁予報(NHKTV(奈良)19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



# Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

1月25日(土)晴 39名+2名(奈良女子大)

土曜日で参加者が少ない。奈良女子大生2名が授業での研究発表のために見学来訪。

里山Gはコナラの玉切り、楢木用コナラの枝払い、薪用玉切り材の運搬、椎茸の収穫など。エコGは水田の寒起こし、ハウレン草の種播き、大根、赤かぶなどの収穫。景観GはBC西側の竹林の枯竹のチップ処理など。花班は第2駐車場近隣の草引き。ビオ班は北側の湿地と水田の東側水路の整備。パトロールGは自然の森の観察とパトロール、自然教室材料集め、エントランス広場の片づけ。果樹Gは甘夏の収穫、梅、グミの剪定、コンニャク畑へのチップ投入など。

1月30日(木)晴 69名



協働活動  
日で全員が  
参加して堆  
肥用の枯葉  
を収集。シ  
イタケイベ  
ントのスタ

ッフ募集、月例研修会(高取城跡)の案内。

里山Gは協働活動、楢木用コナラの玉切り、薪用玉切り材の運搬、薪割り、イベント準備。エコGは南側畑の鹿害予防ネットの補修、畑へのチップ、牛糞入れ、石ころの除去、大根、白菜など収穫。景観Gはチップパー機による古竹処理など。花班は第2駐車場横の花壇の草引き。ビオ班は北水田の排水路の補修、南水田の東側の水路とハス池水路の泥上げ。パトロールGは観察路1コースのパトロール、四季の丘の竹柵の取替えとレンギョウの剪定。果樹Gは協働活動での里山林の落ち葉集めとコンポスト棚への投入。

2月6日(木)晴 63名

今年一番の  
冷え込みの中、  
協働活動で、  
14日のシイタ  
ケイベントの  
植樹用穴掘り  
とアダプトプ  
ログラムによる周辺ゴミの清掃を行う。



里山Gは植樹用の穴掘りとアダプトプログラム参加、イベント準備の真砂土の運搬、薪割り。エコGは鹿対策ネットの補修、玉葱、ニンニク畑への追肥、白菜などの収穫。景観Gはチップパー機による枯竹処理など。花班は山野草、花壇の草引きとチップ入れ。ビオ班は西池の北側の湿地の水路掘り、泥上げ、タナゴ池水路の補修。パトロールGは観察路2コースのパトロール、四季の丘の竹柵の整理。果樹Gは果樹と山菜に牛糞堆肥を散布、ブルーベリー用の竹チップの収集と運搬。

2月13日(木)曇り 66名

シイタケイベント、月例研修会、のらの会、ひな人形作り(鈴木さん提供)の案内があった。

里山Gはイベント準備、楢木置場の整備、薪割りなど、エコGはジャガイモの植付け、空豆の移植、丸大根などの収穫。景観Gは枯竹処理など。花班はサザンカの剪定、草引き。ビオ班はビオエリアの掃除、整理、池の泥上げなど。パトロールGは観察路3コースのパトロール、赤岳のロープ張りなど。果樹Gは新田講師による講習会、梅と次郎柿の剪定など。

2月15日(土)晴 17名

+35名(イベント参加者)

佐保台小児童と保護者及び先方スタッフ33名と会員家族参加者2名計35名を迎えて、シイタケイベント(椎茸菌打ち・植樹)を行う。

里山グループ

里山の変化も楽しいかも

戸田 博子

里山Gに入れてもらって8年になる。オドオドしながら作業し、そのうち仲間と楽しく話せるようになっていく年月だ。

8年の間に、私が見ている里山の様子は、随分違ってきている気がする。

憶えている限りでは、第3駐車場の傍には、ハリエンジュの大木があった。春に小さな白い花が香りと共に心を浮き立たせた。でも今はない。薪割り場の近くにはヤクシマオナガカエデがあり、秋は素晴らしい紅葉を楽しませてくれて、ずっと続くと思っていた。しかし、年々枯れて本数を減らしている。

これも気候変動のせいなのか、あまり樹木に対しての知識がない私には判らないが、あった物が消えていくのは悲しい。

しかし、ならやまの仲間は悲しんでばかりでなく、代わりの手段をドンドン行っている。

夏の暑さに対応できる木や植物・野菜の育成に取り組んでいる。例をとれば、今年度の永年会員の植樹は「フェイジョア」だった。南米が原産地だが寒さにも強く、実は食用になるということだ。



フェイジョアの実

マンゴーやパイナップルの植樹もできるかもしれない。熱帯の花や木がひろがる里山も良い気がする。また、里山の象徴のクヌギやコナラも元気に育つ森でいてほしい。

一会員の戯言と希望です。

里山の今



果樹グループ

ウコンさまさま

岩崎 雅子

「誰ももらってくれな〜い」と高知出身の町内の人から、最後の引受人となって、初対面のウコンがうちにやってきました。

まるで土ショウガのでかメ。泥はついていて、枝分かれのところは洗いにくそう。みんなが敬遠するはず。



とりあえずスライスして、干して、粉にして肝臓にいいよー、ターメリックだよと配っても反応はいまひとつ。カレーに入れるか、炊く米にも入れるとおいしいとの声もあり、シメシメ!

他に何かビックリするものは出来ないかなと、「まさかのウコンでジャム」を作ってみた。手も器もまっ黄っきになって、「そういえば染め物にウコン色があったなあ」と思い出したりして。

果樹グループの珍味に飛びつく面々に試食してもらった。「ウーン、からだによさそう・・・おいしいよ」好奇心あふれるおことばをいただいた。

みのりの森にさっそく種株を植えたら、初めてにしてはたくさん収穫でき、粉末もジャムもみなさんに味わっていただけそうです。加工するとそんなに沢山できない貴重品です。

ウコンは元気が出ること間違いなしみたいです。

前年に会った友人夫妻が1年後にはえらい元気なのはウコンのおかげと言っていました。(これは私的な見解です)



みなさま、敬遠なしで味見してくださいな。

**佐保川小学校学習支援レポ**  
**校庭の自然観察**  
**「寒い冬に木々たちは」**

小島 武雄

令和7年1月27日(月)朝9時、佐保川小学校校庭にスタッフが集まりました。曇り空、気温は11度くらい寒い朝です。4年生の27人と、32人で午前中の2時間。9時30分と、10時35分それぞれ45分間授業です。

当会から山本、桜木、飯島、東、足立、小島が講師として参加、千載会長も来てくれました。校庭の「佐保川の森」の樹木17本が対象です。番号札を取り付けての準備と、説明補足に持参したクロガネモチの葉と実、ドングリ、カエデの種、銀杏の実などを各ポイントに配置し、それぞれの木の状況を確認していきます。

始業チャイムと同時に子どもたちが飛び出してきました。半袖半パンの子もいて寒くないの?とビックリ。

最初に子どもたちを前に「これからやってくる春に向けて、一気に花や葉っぱを成長させるため準備している、冬芽を見に行きます」と挨拶。簡単な自己紹介をして3班に分かれて、はじまります。



<樹木、地図資料>

主な樹木は、クスノキ、ハナミズキ、クヌギ、コナラ、アラカシ、イロハモミジ、ビワ、ヒラドツツジなど。子どもたちみんなで、それぞれの小さな芽を探し、見つめ、木肌に触れ、ドングリの大きさの比較や殻斗を手に取ります。そして、「お家で育ててね!」と持ち帰り用の根の出たドングリを見せます。

イロハモミジのプロペラ状の種が、クルクル回って落ちる所をみんなでやりました。種が風に飛んだり、鳥に食べられて遠くに行ったり、

服にひっついて広がる話をし、種の見本を貼ったパネルは、先生へ。

赤い実のついたクロガネモチの葉に文字が書ける様子を見せます。事前に教室に送ってあった、タラヨウハガキは見たかな?と確認。「あった、あったよ!壁に貼ってある。字書きたーい!」の声に「皆にタラヨウの葉を一枚と、木の筆をプレゼントしますよ」。と伝えました。

最後に、広場に出て持参したフタバガキの種が、クルクルと勢いよく空に舞うのを見せました。歓声が上がります。

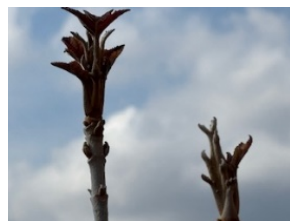


<くるくる回る模型>

輪ゴムで種を、空に飛ばしクルクル回る体験もしました。初めは、うまく出来ませんでした。が、コツをつかんでからは、校庭を走り回り、何度も夢中になって空に飛ばしていました。休憩時間が過ぎて、先生の笛でやっと終わり、模型は大事にポケットへ。

あっという間の2時間です、今日も子どもたちから、元気をいっぱいもらいました。

今年度は、春の樹木の変化、秋は葉っぱの写し絵とドングリ工作、そして今回の冬芽観察の3回開催でした。終了後に教頭から来年度もよろしくと挨拶ありました。



<冬芽の説明>

## シイタケイベントレポ



戸田 博子

恒例のシイタケイベントが、2月15日(土)に行われた。寒さが続いていたので心配したが、青空が広がり、暖かく良い日になった。

佐保台小児童11名、佐保台関係者(保護者・幼児・佐保台スタッフ)22名、会員家族参加者2名合わせて35名の参加者となった。



開始時間で少し双方にズレがあったが、待ち時間に子どもたちは、遊びで楽しんでいた。

佐保台小学校代表の森兼さまの挨拶、千載会長のイベント内容の説明、山本里山リーダーの作業手順説明と段取り良く進み、9時40分菌打ち班と植樹班に分かれてスタートした。

ワイワイ言いながら、植樹場所に到着。

山本リーダーより、植樹の目的が説明された。「コナラやクヌギは80年位が寿命で、この山周りにある木は50~60年の木が多く枯れてきている。古い木は切り倒し、その代わりにドングリから育てた3年目の苗木を植える。それを今日してもらう」。

一家族2本ずつ植樹し、名前を書いたプレートを書いた紐で付けた。紐を結ぶのに慣れていないのか、苦心したようだ。



松林を観察しながら、菌打ち場所へ移動。ここでは、清原さんより、シイタケの栽培方法

が説明された。「2種類(原木シイタケ・菌床シイタケ)があるが、ここでは伐採したコナラの原木にシイタケ菌を打ち込んでいる」と子どもたちに解りやすく話された。

子どもたちは保護者と共に、2~3本の楢木に種駒を打ち込んだ。力の入れ具合が難しかったようだが、楽しんでくれたと思う。木槌の使い方を知らない子もいたようだ。

帰る途中、シイタケの栽培地に出ているシイタケをとり、2個だったがお土産が出来た。



11時40分には、各班とも元気いっぱいベースキャンプに帰って来た。暖かいので子どもたちはもっと遊びたそうだったが、午前のイベントなのでここで終了。

各家族、シイタケの楢木一本をお土産として渡された。持ち帰った楢木に、沢山シイタケができればいいなあ願っている。



参加者が少なくて寂しいかと考えていたが、その分丁寧な対応ができたように思う。2月のイベントとしては暖かく、事故もなくお世話する私たち会員も充分楽しんだと思っている。

(お世話をした会員は17名)

皆さま、ありがとうございました。

**旅の記憶** 日帰りバスツアー ①

2024年7月 國方 まり子

数年前に、とある旅行会社より「無料招待状」が届いて以来、無料のときだけ参加しています。ラッキーなことに、今回で4回目です。とくに昨年7月と9月の2回は食事付き。同伴者は有料になりますが、参加はOKです。

2024年7月25日(木) 滋賀弥生の森歴史公園～京都嵐山の旅



弥生の森歴史公園も京都嵐山もどちらもかつて行ったことはあるのですが、無料だったので、参加しました。

大賀ハスは、今回も見事で、可愛かったです。



嵐山でランチした後、フリータイムになり、渡月橋をぶらぶらしていたら、ひときわ目立つ店先に引きこまれるように入店。大好きなかき氷をいただきました。また、たくさんの風鈴の色と形、音に癒やされました。

海外ボランティア活動体験記-16  
パラグアイ(1997-2002)

木村 裕

前回、結婚式の様子を紹介しましたが、その続きとなる披露宴を紹介します。

披露宴会場は公民館のような感じの大きな建物でした。入り口で入場整理券を手渡して入場。会場内には15ほどの丸いテーブル(6人掛け)が配置され、新郎新婦と両親のテーブルは中央ではなくやや右寄りに配置。会場の天井には中央から四隅に向けて白いテープが張り渡され、煌々と明かりが灯っていました。

中央には大きなウェディングケーキ、その横には果物がいっぱい盛り付けられたかご。ケーキの前には小さな机と椅子が配置され、左の奥に音響装置、右の奥には料理の準備室。

座席はどこに座ってもよく、10時前から飲み物とオードブルのサービスが始まり、新郎側の親と姉が忙しく飛び回って出席者の世話をやいていました。



・新郎新婦が到着すると、中央の机のところに公証人らしき人が立ち、まず新郎と新婦がサイン、ついて20名近くの友人たちを順次呼び出してサイン。話によると、この人たちがこのカップルの1年間の

保証人だそうです。

・ウインナ・ワルツの演奏が始まると、新郎と新婦がダンスを開始。ついて、両親、兄弟もダンスを開始。やがて友人たちもこのダンスの輪にはいり、パートナーを次々にチェンジしながら踊りが続いた。

・挨拶やお祝いのスピーチはなし。

- ・テーブル単位で食事と懇談
- ・そのうちに、5人からなる楽団が入り、にぎやかに音楽を演奏。
- ・楽団はお祝いの歌を歌いながら新郎新婦ともにテーブルを回って、テーブル単位にビデオ撮影と写真撮影。
- ・ケーキカットはナイフを少し入れるだけ。あとで切り分けてお土産になるそう。
- ・新婦から未婚女性へのおすそ分け：新婦と未婚の女性が椅子の上に片足をあげ、新婦はドレスの上にあげ、太ももから飾りのついた靴下留めを新郎が下におろし、それを未婚の女性の太ももにつける。新婦の太ももには20輪くらい装着しており、つぎつぎに未婚女性へ。



- ・新婦が次の結婚を夢見る女性へ、手に持っていたブーケを後方に投げ、あとは争奪戦。
- ・親族単位で記念撮影
- ・12時頃からボリュームをいっぱいあげた音響をバックに新郎新婦がディスコダンス開始。ついて親族、友人たちも仲間入り。夜中の3時ころまで続くとのことで我々は退散。
- ・オードブルのメニュー：ビートの酢漬け、ヤシの芽の水煮+マヨネーズ、レタス・ニンジン・ピーマンを細かく切ったもの。
- ・メインディッシュ：ビフテキ+マッシュルーム、ポテトサラダ
- ・デザート：飾ってあったかごから適宜取り出す。スイカ、パイナップル、ミカン
- ・引き出物；テーブルの明かりに使われていたブリキ製の石油ランプ(6人中の誰か)



# きょうみ 森森

このコーナーは、会員の紹介をいたします。  
 仲間の新たな魅力をお伝えするものです。  
**今回は、山本 美智子 さん (2014年入会)**

好きなスポーツはバレーボール。結婚して45歳までママさんバレーを。奈良県代表で全国大会に出場し、優勝できたことは遠い思い出。アタッカーで、ジャンプが得意でした。

故郷の自慢は、母の実家の高知県。交通は不便ながら、風光明媚な片田舎。素朴で人情豊か。子どもの頃の夏休みに安田川で一日中水につかり、真っ黒になって遊びました。私の心の糧となった原点だと思っています。

タイムマシンに乗れるとしたら、子どもの頃に親戚が賑やかに揃っていたあの故郷へ。

思い出に残るドラマは、倉本總の「北の国から」シリーズです。

「ありがとう」そして朝、昼、夜の挨拶の言葉が好きです。

読書は、生活の一部。図書館で毎月約20冊を借りて読んでいます。ノンフィクション、エッセイ、歴史、冒険などジャンルは何でも。

12年一緒に暮らしたペットのオス猫は勇猛果敢で、野ウサギを狩りして持ち帰りました。



山本美智子さんは、人情豊か。植物全般にもお詳しく、ライセンスもお持ちです。花なら何でも好き。園芸の花も野の花も「よく咲いたね」と愛おしい気持ちになられるそうです。10年会員の記念植樹では花も実も香りも良いフェイジョアを選んでいただきました。

初恋は高校2年生。生徒会役員の1年先輩の憧れの人でした。

人生に影響を与えてくれた人は、高校の担任の先生。女性の自立の大切さをよく話してくださいました。

今後の目標は、人生の終盤にあたり、悔いのないように楽しく生きていくことです。

目立つことなく、コツコツと努力し、細やかな心遣いのできる人を尊敬します。

大病2つ、経過予防中。二病息災。よく頑張っているねと労いの声をかけたいです。



フェイジョアの花言葉：エキゾチックな花姿から「情熱に燃える心」  
 甘い香りから「甘美な思い出」

今熱中していることは、和菓子、料理、書道、俳句、色鉛筆画、花壇づくりなどなどです。

「幸せだなあ」と思う瞬間は、親の時代に比べて戦争がなく、平和に暮らせていることです。

誕生日を迎えるたびに両親に感謝しています。おかげさまで、両親の享年を越えています。

# 新ならやま投句箱

## 俳句

春を待つ小楯の林青天井

冬野菜坊主になりて小鳥群れ

莞映え輝き暮れる冬苗

凍てつく夜鍋にポンスの柚子しぼる

寒菊や後光のごとく庭照らし

受験生皆んなに届けサクラサク

蒼天に氷を纏いて樹々光る

メジロくる終南天黄金色

毛糸巻く母の手伝ひ幼き手

## 川柳

節分や豆食べきるに二日かけ

ひらり来て膝毛布に丸くなる

トランプよ関税関税アカンぜよ

耳澄まし小さな麩にホットする

活動日着ぶくれ姿勢鈍し

チヨコレート君のを見せて同じ柄

ここ何処だ飲んだ飲んだよ帰り道

菊川 年明

八木 順一

阿部 和生

國方 まり子

羽尻 嵩

豊田 浩代

高間 祥子

小島 武雄

藤原 勲

のぶ

たけちゃん

トラ吉

愛妻家

草引き名人

順ちゃん

ぜんさん



新ならやま投句箱への投句有難うございます。今後ともよろしく願いたします。

## 短歌

ウー寒い膝が泣いてる二階建て  
物価高病院だけは人の波

体重超過  
フランカー

春立ちてゆかしさ残る蠟梅に

次は私と告げ草ふふむ

千載 輝重

冬枯れの母を見舞った帰り道

翡翠飛び立ち心和らぐ

戸田 博子

下池にまつすぐ伸びる泳跡波

自慢顔したカルガモが行く

内河 洋文

薄靄の立つ池の端にひとつがい

オシドリ浮かぶ初春の朝

富江 文雄

今年こそ佳き年にと初詣

靱帯損傷希い挫けし

坪井 都子

九十歳そば打つ腕も名人芸

武芸百般いまも現役

阿部 和生

頬よぎる春のいざない山肌

季節の鼓動忍びて来たる

谷川 雅邦

ならやまで駒うち愉しむ我が孫の

冬菇どんこに似たる拳愛しき

清原 加代子

# 行事案内



## ならやま桜祭り

2025年スタートの4月は、例年なら新入会員歓迎会を行っていましたが、しかし、当会も世の中の人手不足(?)の煽りか、ここ1~2年は入会者が減少しております。

2024年度は、2名の方が入会されています。そこで敢えて新入会員歓迎会の名前を付けず、ならやまに多く咲く桜を眺めながら、長期会員共々親睦会をしてもいいかと考えました。

桜の花見につきもののお酒はありませんが、充分に楽しめる会にしたいと思っています。

活動日でもありますが、皆さま奮ってご参加ください。

内容については、期日が近づいた時に再度お知らせします。

- 日時 4月3日(木)  
雨天順延(4日)  
午前11時30開始
- 内容 豚汁  
桜関連菓子、飲み物提供
- 場所 さくら山近辺など
- イベント お楽しみ



担当 青木(芳)尾崎 戸田

### 4月 月例研修会のご案内

#### 花見：三重県上野森林公園と 上野公園(伊賀上野城)

富井 忠雄

上野森林公園は、かつて人の暮らしと深く結びついた里山が主体となった自然公園です。

広さはドーム球場約6個分(43ヘクタール)森や草原、湿地、池など変化に富んだ環境があり、さまざまな野生の生き物が暮らしています。

その中の“陽だまりの丘”でお弁当・お酒などを頂きながら花見を楽しみましょう。

**伊賀上野城**:当時、藤堂高虎は築城三名人(加藤清正・黒田官兵衛)と並び称され、築城、社寺仏閣の建立・修理に多大な功績を遺しています。上野城も大阪城を見据えた軍事的な城として、筒井家の居城を、高石垣、層塔型の技術で改築しています。上野公園の中には松尾芭蕉の俳聖殿、芭蕉翁記念館などがあります。

帰りは島ヶ原の観菩提寺(正月堂)を見学して道の駅“みなみやましろ村”に立ち寄ります。

#### 記

- 1.日 時:4月8日(火) 雨天実施
- 2.集 合:近鉄奈良駅旧奈良商工会議所前 9時
- 3.持 物:弁当、雨具、飲物、敷物
- 4.会 費:6000円(バス代・飲物・つまみなど)
- 5.申込先:富井忠雄
- 6.行 程:旧商工会議所前 9時—針インター—上野東 IC—上野公園(上野城・俳聖殿)—上野森林公園(花見・昼食)—R163—観菩提寺(正月堂)—道の駅“みなみやましろ村”—近鉄奈良駅前 17時頃

上野森林公園



上野城



**2025年2月度幹事会報告**

開催日：1月28日

- I.はじめに
  - ・新春交流会で、他のG活動に参加する場を設けたいとの要望があった。実施案を検討。
- II.会計・総務より
  - ・会員動向：会員数128名(家族会員12名)
  - ・会計：収支報告
- III.活動・行事に関する議題・懸案・確認
  1. 3ヶ月活動スケジュール検討・確認
    - ・佐保川ワイワイ桜祭り(3月29日)参加
    - ・新人歓迎会は無くし、桜の時期にイベントを行い、その中で新人を歓迎する
    - ・土曜の活動は3月から元の木曜日に戻す
  2. ならやまプロジェクト関係
    - ・3/4の月例研修会の雨天予備日は3月5日
    - ・2/6協働活動は植樹用の穴掘りとアダプトプログラムとする
    - ・四季の丘の活用について提案を求める
  3. イベント関係
    - ・2/15シイタケイベント、予備日は翌日
    - ・佐保川ワイワイ桜祭りの計画内容確認
    - ・こどもゆめくらぶは11/15に変更
- IV.助成金関係
  - ・進捗状況、申請状況を確認
- V.特定議題
  - ・2025年度の予算作成、2/13までに各Gより申請、3月度幹事会にて決定
  - ・ユートピアクラブは解散、里山Gの活動の中で赤松林の保全に取り組む
- VI.広報関係
  - ・会報誌の編成、執筆者の確認
- VII.報告・連絡事項、その他
  1. 月例研修会、3/4高取城
  2. 自然教室、1/27 佐保川小学校学習支援  
自然教室で今年度の活動は終了
  3. その他  
次回幹事会は2/25(火)中部公民館14:00



ラジオを聴いているとき、あるミュージカルの歌手が、歌を歌う時の歌詞について話していた。同じ「み」という音声でも「みかん」の時と「三重県」という時、発声に違いがあるように歌いたいと。

私には思いもよらない話だった。「悲しい内容」と「嬉しい内容」とで違った歌い方をするのは、理解できる。一つの文字だけでも感情をのせて歌うのはどんな風にするのだろうか。その歌手は、「あなたは、旋律も歌詞も響きは素晴らしい。その中で文字に気持ちをのせられるか」と、ある先生から言われたそうだ。

人に言葉を伝え楽しませるには、この様に努力しているのだと感激してしまった。

私などメロディーが好きで、自分が良い気持ちになる程度で歌っていた。顔も見えない不特定多数の人たちの心に入っていく音楽とは、この様な歌手がいるからなのだと納得した。

現在書いている「こもれび」の文章を、声に出して読んでみた。「木漏れ」と発声した時、光が差し込むような景色を音にのせられるか?

ウーン!! 無理でした。

\*\*\*\*\*

**4月ならやま活動&行事予告**

\*ならやま活動

4/3 協働活動日 ならやま桜祭り

\*月例研修会 4/8 上野森林公園 お花見

会員動向(敬称略)  
<入会者> 2/13 岩月 淳 (イツキ ジュン)

発行：奈良・人と自然の会  
URL : <http://www.naranature.com>  
編集代表 Mail: [editor@naranature.com](mailto:editor@naranature.com)  
編集委員：青木(幸)・尾崎・清原(加)  
柴田・千載・田中・戸田

写真説明：シイタケイベントに参加した家族と力を合わせて苗木を植え、支柱を立てています